

われわれの住む世界のフラット化と建築をテーマにした建築設計課題の第 2 弾として、昨年引き続き現代中国都市を舞台に、今年はフラット化する世界における住宅を皆さんと一緒に考えて行きたいと思います。

## 1. 背景 グローバル化と中国の住宅

19 世紀半ば西洋帝国主義の手が中国まで達し開国して以来、中国の都市住宅は、めまぐるしく変わる政治・社会・経済状況を背景に、都市化にともない増え続ける都市居住人口と慢性的な住宅用地不足・住宅供給不足という深刻な都市問題の中で、福祉と商品の二極を往復しながら発展してきました。封建社会下の大家族は解体、核家族化が進行し一人っ子政策に至る社会の変化を通して、都市住宅は多層化、高層化の一途をたどります。その結果、4000 棟以上もの超高層ビルが林立する今日の上海のような都市風景が生み出されました。

現代都市住宅の発展は、伝統的でローカルな生活スタイルや居住形式を消滅させる一方で、グローバル化する世界の影響を受けながら、常に外部を吸収しながら都市居住形態に多様化をもたらしてきました。コロニアル期におけるヨーロッパ諸国による住宅開発では、西洋的概念を伝統的な住宅平面に融合した機能分割型プランが登場し、伝統的コートヤード型の低層住宅に取って代わってより高密度に住むための多層式の長屋住宅が誕生しました。計画経済期には、旧ソ連を参照し工業化量産住宅モデルが導入されて都市居住を画一的なものへと変容させました。そして、近年における住宅マーケットの誕生は、絶えず差異化が求められる商品へと都市住宅を変貌させ、ニュータウンや超高層住宅など数々の既存海外モデルの輸入をおしすすめています。

最近では、加速するグローバリゼーションの影響が、より直接的に生活スタイルや居住形式に反映されるようになってきています。2000 年あたりから中国不動産市場に登場しはじめたホテル・レジデンス、あるいはサービスアパートメントと称される住宅は、中長期的に滞在する海外からのビジネスマンや訪問者に広く利用され、今日のグローバリゼーションにおける移動と居住のあり方を顕著に示しています。増加する日本人駐在員とその家族をターゲットにしたセコム管理の中廊下型集合住宅など住宅マーケットのニッチをねらったものも出現しています。また、Small Office/Home Office (スモールオフィス・ホームオフィス) の略語である SOHO は、「パソコンなどの情報通信機器を利用して、小さなオフィスや自宅などでビジネスを行っている事業者」(ウィキペディア) といった意味で広く使われる言葉ですが、中国では現代居住形式のひとつとなり、住宅マーケットの一カテ

ゴリーとして位置付けられ、在宅型ビジネスや小規模ビジネスのグローバルな展開を助長しています。

## 2. 課題

フラット化するグローバリゼーションは、われわれの生活スタイルにより一層多様性をもたらし、居住と住宅の関係を根本的に解体しつつあります。最近日本で社会問題化されている「外こもり」なる生活スタイルは、それを顕著に示す一例です。物価の安いタイなど東南アジアが滞在先の筆頭に上げられがちですが、中国にも所謂「日本を降りた若者たち」が少なからずいます。長期間格安の宿に泊まってほとんど外出することのない生活を送る彼らは、わずらわしい社会との接触は回避しながら、ネットカフェがありコンビニがある、日本と変わらない生活環境の中で自由気ままな生活を送っています。チャットやIP 電話を使えば日本にいる家族や友人といつでも話ができ、また、日本のニュースやドラマもインターネットで見ることができて、必要な情報はすべて日本語で入手することができます。気が向けば、同じ宿に滞在し同様な暮らしをする仲間としゃべったり、カラオケをしたりする。もはや居住の前提は家族や永住性ではなく、すべて個人的で暫定的なものに置き換えられてしまっている。居住のための器も「家」なのか「宿」なのか区別がつかずあいまいで希薄なものになっています。

本課題においては、フラットな社会と住み方を許容するプラットフォームとしての集合住宅の提案を求めます。フラット化する世界の諸相に目を凝らし、われわれの生活変化がもたらす可能な住まいを考えてください。きっとホテル・レジデンス、サービスアパートメント、日本式集合住宅、SOHO といった既存の 카테고리 には当てはまらない新しい住宅タイプが発見されるでしょう。それは居室の配列の仕方にかかわってくるでしょうし、既存都市との連結の仕方にもかかわってくるでしょう。さらには、居室内の家具や電子機器と身体を取り結び方にも関係し、集まって住むという概念を根底から覆すことになるかもしれません。既成概念に捉われない自由な発想を期待します。

### 設計条件

規模：延べ床面積 6,000 m<sup>2</sup>程度 居住人口 250 人程度

用途：住宅+ $\alpha$  ( $\alpha$ は各自設定。 $\alpha$ =住宅としてもよい。)

高度制限：150m

敷地状況：平坦地

敷地面積：2,230 m<sup>2</sup>

道路幅員：北側 25m、東側 10m、南側 7m

駐車台数：1 台/ユニット

### 3. 敷地

2010 年の万博開催に向けて急ピッチで街全体のリニューアルが進められている上海市中心部から万博敷地に向かう黄浦区南部、陆家浜路 (*Lujiabang Lu*) と南车站路 (*Nanchezhan Lu*) が交差する一画を本課題計画地に指定します。このあたりは、疎開時代都市の周辺部に位置しスラム化していたところで、いまでも多くのローカルが健在しています。敷地の西側には 1930 年代に建てられた里弄住宅が残っており、沿道に面する部分は、改修工事が施され美化作業が進められています。敷地周辺では、土地利潤の低い低層住宅の多くが取り壊され、高さ 150m におよぶ超高層住宅の計画が進んでいます。1 街区西には万博敷地と市中心部に位置する人民広場を結ぶ地下鉄 8 号線陆家浜路駅が位置し、人民広場まで 3 駅という交通の便に恵まれた立地条件にあります。(添付資料参照)。

### 4. 課題の進め方

本課題は、2 人一組のチームプロジェクトとします。